

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道159号 羽咋道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：石川県羽咋市四柳町 至：石川県宝達志水町二口	延長	6.7km		
事業概要	国道159号羽咋道路は、交通事故の減少、安全性の向上、地域産業の活性化などを目的とした延長6.7kmのバイパス事業である。				
H20年度事業化	H13年度都市計画決定	H24年度用地着手	H27年度工事着手		
全体事業費	約185億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	34%	供用済延長	—km
計画交通量	12,900～15,800台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 0.9 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 132/209億円 〔事業費：83/160億円〕 〔維持管理費：50/50億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 186/186億円 〔走行時間短縮便益：154/154億円〕 〔走行経費減少便益：25/25億円〕 〔交通事故減少便益：6.7/6.7億円〕	基準年	令和4年度
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量：B/C=0.7～0.99(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.2～1.6(交通量±10%)</p> <p>事業費：B/C=0.9～0.9(事業費±10%) 事業費：B/C=1.3～1.5(事業費±10%)</p> <p>事業期間：B/C=0.9～0.9(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.4～1.4(事業期間±20%)</p>				
事業の効果等	<p>①安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 羽咋道路の現道区間には、道路幅員が狭い箇所や線形不良箇所、歩道整備が不連続で幅員の狭い箇所が存在している。また、通学路合同点検における要対策箇所が2箇所存在する。 安全で快適に通行できる羽咋道路の整備により、現道の大型車等の交通が羽咋道路へ転換することで、歩行者の安全性確保が期待される。 <p>②第三次救急医療施設へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 能登唯一の第三次救急医療施設である公立能登総合病院が七尾市にあり、国道159号を走行するルートが、羽咋市中心部から公立能登総合病院への最短搬送経路となっている。 広幅員かつ信号交差点を回避できる羽咋道路の整備によって、走行性や第三次救急医療施設へのアクセス性が向上し、迅速な救命救急活動を支援する。 <p>③災害に強いネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道159号は第一次緊急輸送道路に指定されているものの、沿線には土砂災害警戒区域が存在しており、大雨などの自然災害発生時には道路が寸断される可能性がある。 羽咋道路の整備により、災害時にはこれらのエリアを回避できる、緊急輸送道路ネットワーク機能の確保が図られる。 <p>④地域産業の活性化・物流効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 羽咋道路周辺および周辺市町には、ベアリングの国内大手企業や関連工場が集積しており、中能登地域で一体的なベアリングの製造工程を担っている。 羽咋道路の整備により、産業の活性化・物流効率化による生産性向上に寄与することが期待される。 				
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見：</p> <p>国道159号羽咋道路整備促進期成同盟会から、羽咋道路の早期完成に向けた要望をいただいている。</p> <p>知事の意見：</p> <p>国道159号は、七尾市を起点として、中能登地域の主要都市を結び、金沢市に至る幹線道路である。このうち羽咋道路については、先に整備された押水バイパスや鹿島バイパスを結び、中能登地域の幹線道路網を形成するとともに、災害時の緊急輸送道路として重要な道路である。</p>				

現在事業中の羽咋市四柳町～宝達志水町二口間については、既に部分供用している国道415号羽咋バイパスと相まって広域交流の拡大や地域住民の安全・安心な交通の確保を図るため、早期整備が必要である。

このため、国道159号羽咋道路については、引き続き事業を継続し、早期の事業効果発現に向け、コスト縮減に努めながら着実に整備を進め、早期完成を図っていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

前回再評価以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況：用地取得率44%、事業進捗率34%、（令和4年3月末時点）
- ・残事業の内容：用地取得、埋蔵文化財調査、道路設計、改良工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・用地取得、埋蔵文化財調査、道路設計、改良工事を推進し、早期暫定2車線供用を目指して事業を推進する。
- ・4車線整備については、交通状況を勘案しつつ整備時期等を検討する。

施設の構造や工法の変更等

- ・橋梁延長が短い橋梁をカルバートに構造変更することによるコスト縮減を実施。
- ・建設発生土の有効利用や新技術の活用等により、コスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。